

2012年度 早稲田大学 商学部

日本史 解答例

① 平安時代の政変 <標準>

問A 5 問B 1 問C 3 問D 6 問E 1

問F 5 問G 2 問H 1 問I 3 問J 4

「適当なものがなければ6をマークせよ」という消去法が使えないタイプの問題のせいで、難易度が上がっている。本当に難しいのは問Jのみ。問Hはやや難しいが、六国史のそれぞれがどの天皇の時代を書いているかは、ある程度覚えてあった人がいるだろう。天皇の名前を順番に覚えてうえて、六国史の一覧を『日本文徳天皇実録』を軸に前後を見るとわかるはずだ。

② 中世・近世の史料 <易>

問A 3 問B 1 問C 3 問D 1 問E 1

問F 4 問G 5 問H 4 問I 2 問J 5

史料I・IIは頻出なので、空欄問題も下線問題もともに解きやすかった。史料IIIは未見史料だが、寺院名や「生害す」などから読解できただろう。後は織田信長が「美濃加納」にも楽市令を出していたことを知っていたかどうか。頻出事項ではないが、立命館・慶應などいくつかの大学で出題されている。早稲田を狙うレベルの受験生には、ふつうに覚えていてもらいたい。

③ 江戸時代の身分 <やや易>

問A 3 問B 1 問C 4 問D 4 問E 1

問F 2 問G 4 問H 5 問I 4 問J 1

未見史料であるにもかかわらず、史料文中の空欄を埋めさせられるなど、緊張を強いられただろう。問Jがやや難しいが、cなどは「差別強化に反対する一揆が、一度も起こらなかつたってことはないだろう」と推測して解けた人もいるだろう。ここでその具体例である「渋染一揆」を問わないところがおもしろい。早稲田の入試では推測して解くことも心がけよう。そのためには、ふだんから「想像力」を養うことが必要である。単に教科書を読んだり、講義を聴くだけでなく、同時に想像す

ることが大切なのだ。

4 大隈重信の談話 <標準>

問A 3・5 問B 3・4 問C 1・5 問D 3・5 問E 2・4

問F 2・4 問G 1・5 問H 2・4 問I 2・4 問J 1・2

大隈先生リスペクト問題。早稲田を狙うなら、史料Iを読んだだけで、これが大隈重信の談話だということに気づきたい。10問とも解答を2つ選ばせる問題だが、部分点はないだろう。なぜなら全小問数が57個で、配点が60点だからだ。つまり完答してようやく1点というわけである。しかし、これは正解以外の3つを確定させれば良いという意味でもあるため、決して解きにくいわけではない。単に苦手としている受験生が多いただけの話である。この大問で難問と言えるのは、問F・H。ただし問Fは、明治大学を併願していた人にとっては、難しくなかったかもしれない。

5 大正・昭和初期の政治・外交 <やや易>

問A 4・5 問B 2・3 問C 2・4 問D 1・3 問E 3・4

問F 統帥 問G 井上日召 問H 斎藤実 問I 日満議定書 問J 1933(年)

難問は問E。ところで、問F以降、および次の**6**などは、単なる穴埋め問題なので短時間で解くことができる。ときどき、ここまでの問題に時間がかかりすぎて、この単純問題を解く時間がなくなってしまう人がいる。同じ1点なのだから、短時間で容易に得点できる問題を優先して解くべきだ。過去問演習の際には、そうした戦略を立てることも考えていこう。

6 戦時下の国民統制 <やや易>

問A ぜいたく 問B 国民 問C 隣組 問D 切符

問E 配給 問F 自作農 問G 地主

問H 制空・制海権をアメリカ軍に奪われ、南方からの海上輸送が妨げられて原材料輸入が困難となった。(45字)

問Bは難問。単純な用語ではあるが、正解できなかったことを気に病む必要はない。めったに出ないEランク用語に振り回されず、もっと何度も出題されている用語を習得していこう。ところで問Fについて、辞書の説明などから「農地委員会ではないのか？」という質問があったが、リード文の空欄の後に「の創設を進める」と続

いているところを読むと、「自作農」の方が適切だ。東京書籍の教科書に「一方、政府は食糧増産の必要から、地主中心の農業政策を改め、小作農保護の政策をとった。1938年にまず自作農創設を目的とする農地調整法が制定された。」とあり、清水書院の教科書には「1938年以降、農地調整法制定などとともに、自作農・小作農などの中堅人物を養成し、戦時体制に農村を組み込んでいく中心的な施策となった。」とある。山川出版の用語集の「農地調整法」の項にも「1938年、自作農創設と小作争議抑制のため制定」と書かれている。

講評

商学部の入試では、最後に論述問題がもうけられているが、文字数が少ないうえに語句が指定されているため、指定語句をヒントに想像力をはたらかせて筋の通った文章をつくれれば、十分合格ボーダーを超えられる。こうした問題からも、早稲田では「想像力」が求められていると感じないだろうか。